



2024年3月期 決算説明会

2024年5月22日

 **ワイエイシーホールディングス 株式会社**

(証券コード：6298 東証プライム)

<https://www.yac.co.jp>



説明会概要

1. ご挨拶

HD代表取締役社長 百瀬 武文

2. 2024年3月期通期決算概要

HD取締役常務 畠山 督

-①メカトロニクス関連事業

HD取締役副社長 伊藤 利彦

-②ディスプレイ関連事業

HD執行役員 青木 康浩

-③産業機器関連事業

HD執行役員 副島 幸雄

-④電子機器関連事業

HD取締役専務 大倉 章裕

3. ワイエシイグループの今後の展開

HD代表取締役社長 百瀬 武文

-①半導体・メカトロニクス関連事業

HD取締役副社長 伊藤 利彦

-②医療・ヘルスケア関連事業

HD代表取締役社長 百瀬 武文

-③環境・社会インフラ関連事業

ワイエシイバイオ社長 関口 孝

HD取締役専務 大倉 章裕

4. Q&A



1. ご挨拶

ワイエイシーホールディングス株式会社

代表取締役社長 百瀬 武文



2. 2024年3月期通期決算概要

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役常務執行役員 富山 督

1. 決算概況について

- ① 24年3月期連結決算は前期比増収増益の仕上がり
- ② 自己資本当期利益率（ROE）は8.6%と8%台に上昇

【ご参考】

	20/3末	21/3末	22/3末	23/3末	24/3末
売上	21,914	24,195	22,796	24,114	26,809
当期利益	▲958	337	1,107	921	1,417
一株利益	▲106.08円	37.19円	121.49円	100.57円	154.33円
連結純資産	1525.83円	1548.94円	1673.48円	1737.30円	1848.77円
期末株価	413円	976円	1,682円	2,751円	2,543円
PBR	0.27	0.63	1.00	1.58	1.37
ROE	▲6.7%	2.4%	7.5%	5.9%	8.6%

1. 売上高について

- ① 24年3月期連結売上高は前期比11.2%増の268億円
- ② 各セグメント売上高も増収の仕上がり

2. 粗利益について

- ① 24年3月期粗利益は前期比16.6%増の71億円
- ② 粗利増（+10億円）は「増収効果（+7億円）」が大きく寄与
- ③ 粗利率も26.5%と1.3%ポイント改善

3. 営業利益について

- ① 24年3月期営業利益は前期比34.1%増の20億円
- ② 新規グループ入り2社の経費増、賃上げによる従業員人件費負担増、その他M&A経費増等により粗利益の増益効果が減殺。

4. 当期利益について

- ① 24年3月期当期利益は前期比53.9%増の14億円
- ② 大倉電気による北海道地域の代理店買収に伴う「負の暖簾」も増益に寄与

1. 総資産について

- ① 24年3月期末総資産は前期比13.1%増の438億円
- ② 運転資本（流動資産－流動負債）は10億円の増加
- ③ 自己資本比率は41.1%から38.7%へと低下

2. 連結キャッシュフローについて

- ① 営業キャッシュフローは+9億円と黒字に転換
- ② 成長投資に係る支出を財務収支で賄う構造は変わらず

3. 自己資本当期純利益率（ROE）について

24年3月期ROEは「売上高当期純利益率の改善」により8.6%と8%台に上昇

(単位：百万円)

	2023年3月期	2024年3月期	前年比 増減額	前年比 増減率(%)
売上高	24,114	26,809	2,695	11.2%
営業利益 (営業利益率)	1,495 (6.2%)	2,006 (7.4%)	511	34.1%
経常利益	1,541	2,074	533	34.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	921	1,417	496	53.9%
1株当たり 当期純利益(円)	100.57	154.33	53.76	53.4%
研究開発費	357	389	32	8.96%
設備投資額	774	566	△208	△26.8%
減価償却実施額	512	590	78	15.2%

【トピックス】

対前期：増収増益決算 - 増収効果（+680M）が全体収益を牽引

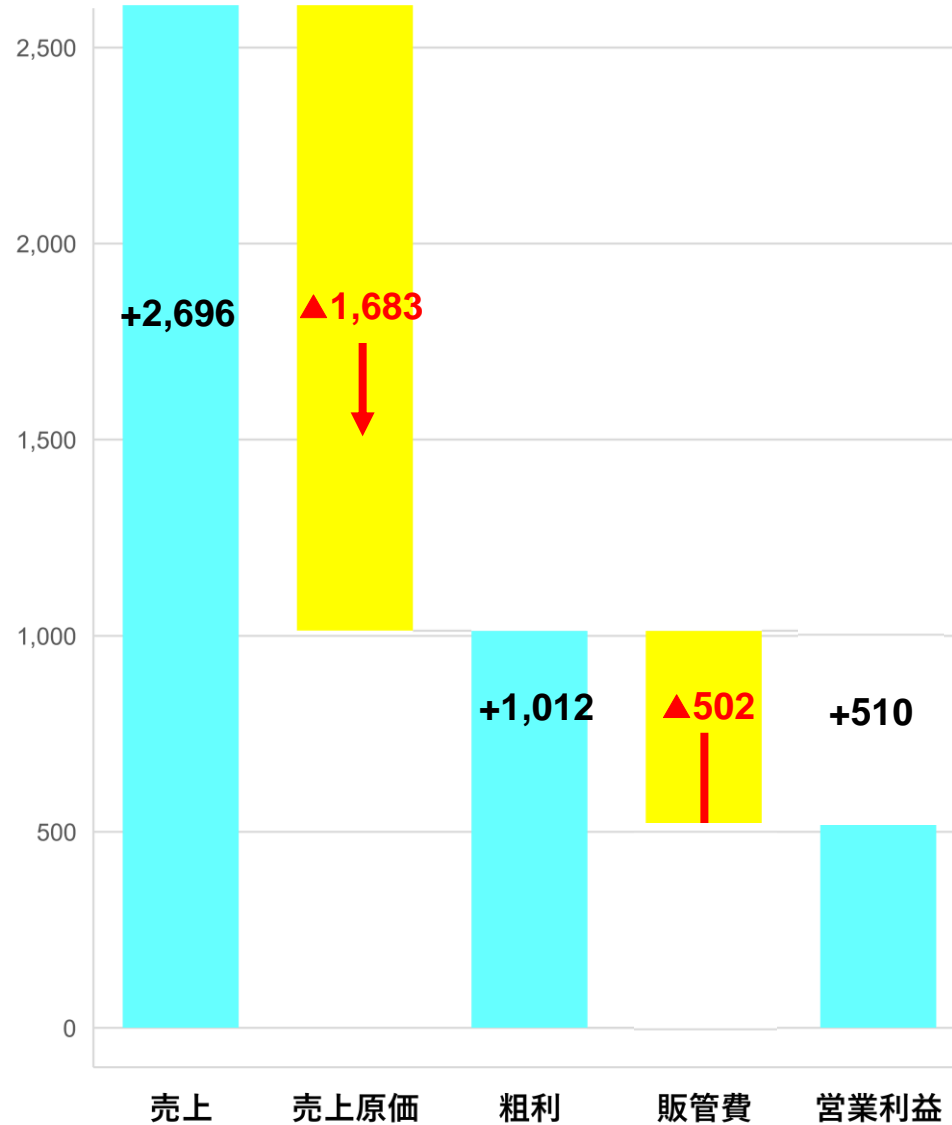
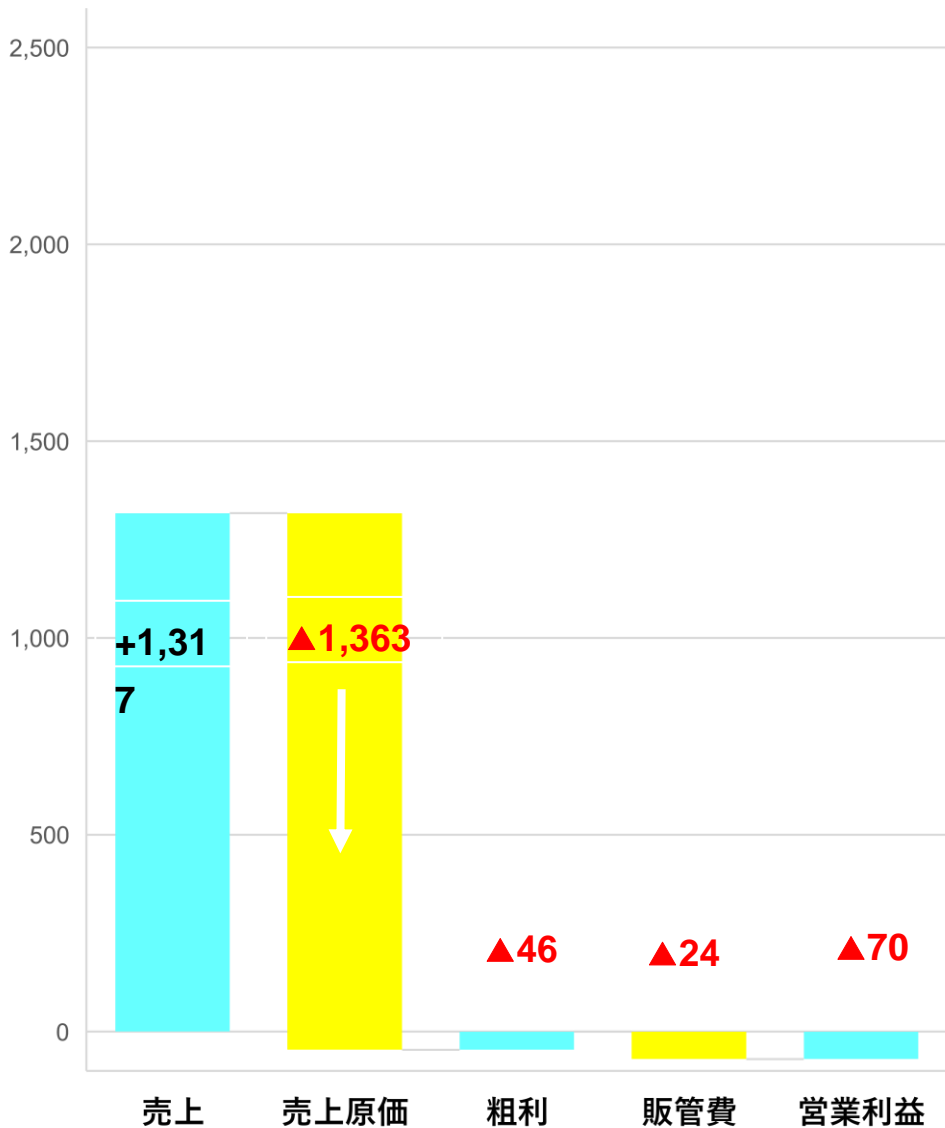
粗利増（+1012M）= 増収効果（+680M）+ 粗利率改善（+332M）

（単位：百万円）

	2022/3期 実績①	2023/3期 実績②	2024/3期 実績③	前年対比（③-②）		業績予想（23/11/13） 進捗状況 （億円）
				増減額	増減率	
売上	22,796	24,114	26,809	2,695	11.2%	89% (300)
粗利	6,133	6,087	7,100	1,012	16.6%	
粗利率	26.9%	25.2%	26.5%			
営業利益	1,566	1,495	2,006	510	34.1%	67% (30)
営業利益率	6.9%	6.2%	7.5%			
経常利益	1,491	1,541	2,074	532	34.6%	71% (29)
当期利益	1,107	921	1,417	496	53.9%	67% (21)
EPS（円）	121.49	100.57	154.33	CF：217.63（2025/3期予測）		

【2023年3月期 51期 4Q】

【2024年3月期 52期 4Q】



【ご参考：過去5年間の連結損益状況推移について】

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上	21,914	24,195	22,796	24,114	26,809
粗利	4,300	5,107	6,133	6,087	7,100
同率	19.6%	21.1%	26.9%	25.2%	26.5%
営業利益	▲361	727	1,566	1,495	2,006
同率	—	3.0%	6.9%	6.2%	7.5%
経常利益	▲443	739	1,491	1,541	2,074
当期利益	▲958	337	1,107	921	1,417
同率	—	1.4%	4.9%	3.8%	5.3%

【トピックス】

ディスプレイ部門は黒字転換。一方、産機は新規加入「JE社等」の不振により赤字幅は拡大

(単位：百万円)

	セグメント				小計	調整	合計
	メカトロ	ディスプレイ	産業機器	電子機器			
22/3売上	10,866	3,639	1,021	7,269	22,796		22,796
同営利	957	10	▲171	629	1,425	141	1,566
23/3売上	11,045	4,304	1,020	7,743	24,114		24,114
同営利	1,126	▲465	▲39	763	1,384	111	1,495
24/3売上	11,127	5,770	1,225	8,685	26,809		26,809
同営利	1,460	383	▲395	1,051	2,500	▲493	2,006

【トピックス】

総資産（438億円）と23／3末比：+50億円強と著増(+13.1%増)

(単位：百万円)

	2022年3期	2023年3期①	2024年3期②	増減②-①
流動資産	28,865	30,108	33,013	2,904
固定資産	8,131	8,631	10,814	2,182
総資産 計	36,997	38,740	43,827	5,086
流動負債	13,824	13,680	15,665	1,984
固定負債	7,848	9,082	11,171	2,089
負債 計	21,672	22,763	26,837	4,074
純資産 計	15,324	15,977	16,989	1,011
ROE	7.50%	5.90%	8.62%	+2.7%

【トピックス】

限界比率の悪化（19.9% = 1,011 / 5,086）により自己資本比率は悪化

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	増減
自己資本比率	35.3%	37.5%	41.3%	41.1%	38.8%	-2.3%

【トピックス】

営業キャッシュフローは運転資金要因の大幅改善により黒字転換

23/3期：損益要因(+1,624M) + 運転資金要因(▲3,260M) = ▲1,636M

24/3期：損益要因(+1,903M) + 運転資金要因(▲1,021M) = +882M

(単位：百万円)

	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
前期末現金同等物	6,450	9,932	8,619	6,552
営業活動C/F	+3,477	+1,093	▲1,636	+882
投資活動C/F	▲540	▲195	▲742	▲2,178
財務活動C/F	+548	▲2,302	+272	+2,252
為替換算	▲3	92	39	49
当期末現金同等物	9,932	8,619	6,552	7,558

【トピックス】

23年3月末受注残については、サプライチェーンの混乱を背景とした「長納期部品」等の前倒し発注という一過性要因により一時的に積み上がったもの

(単位：百万円)

	2022/3期 実績(12か月)		2023/3期 実績(12か月)		2024/3期 実績(12か月)		備考
	受注高	受注残	受注高	受注残	受注高	受注残	
メカトロ	12,151	4,524	14,033	7,512	9,222	5,031	
ディスプレイ	6,549	6,665	6,181	8,542	1,147	3,894	
産業機器	985	123	1,041	144	1,820	661	
電子機器	8,945	7,861	9,167	9,286	7,383	7,983	
合計	28,632	19,174	30,425	25,485	19,575	17,570	

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
受注残	12,329	16,907	13,338	19,174	25,485	17,570

【トピックス】

今年度は売上高当期利益率の改善がROE比率を押し上げ。

他方、引続き資産効率は低水準であり、それを財務レバレッジで賄う構図は変わらず。

	2021年3期	2022年3期	2023年3期	2024年3期
売上高当期利益率①	1.40%	4.83%	3.82%	5.29%
総資産回転率②	0.645回転	0.617回転	0.622回転	0.611回転
財務レバレッジ③	2.665倍	2.413倍	2.480倍	2.665倍
ROE (①×②×③)	2.40%	7.50%	5.90%	8.62%



セグメント情報

2-① メカトロニクス関連事業

ワイエイシイホールディングス株式会社

取締役副社長

ワイエイシイメカトロニクス株式会社

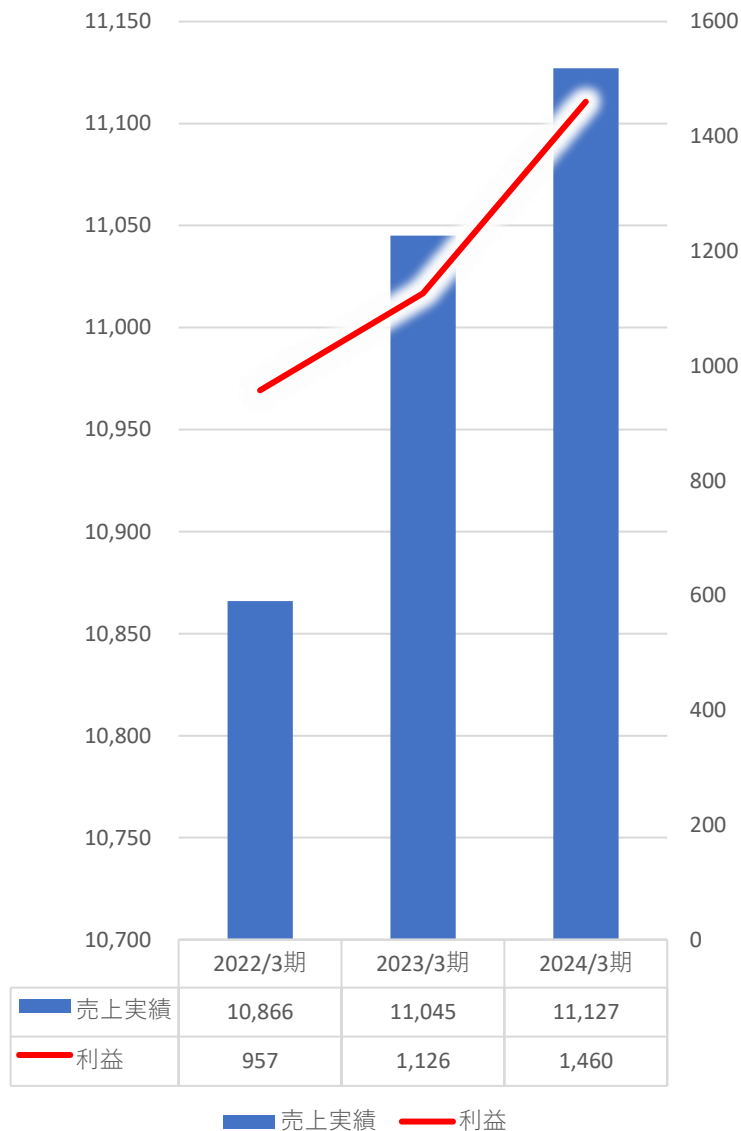
代表取締役会長

伊藤 利彦

2024年3月期通期分析

- 3年以上連続増収増益
- ただし、各予算では、未達
- 分析
 - ① HDD関連設備投資が後倒し
 - ② クリーンコンベア等自動搬送装置、並びにイオンビームミリング装置は好調
 - ③ 電子部品市場低迷による、キャリアテープ、テーピング装置等売上げ減少
 - ④ パワー系を含めた半導体業界向け装置は堅調
 - ⑤ 期末受注残は50億を超えるも、予算未達

単位：M円





セグメント情報

2-② ディ스플레이関連事業

ワイエイシイホールディングス株式会社

執行役員

株式会社ワイエイシイデンコー

代表取締役社長

青木 康浩

2024年3月期通期分析

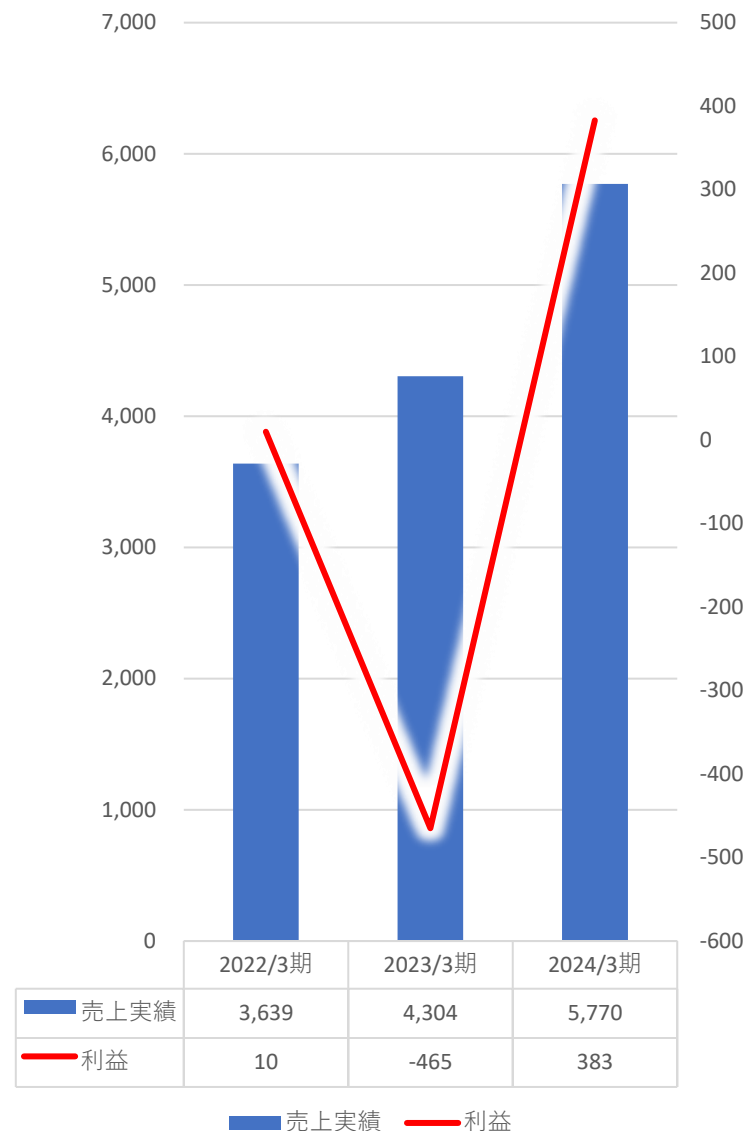
■ 市況

ディスプレイ市場は、既存製品のパネル需要が回復しつつあることと、IT用OLEDパネルの新規需要に伴い、新規設備の引合及び消耗サービス案件の需要が前年比増加傾向にある。

■ セグメント動向

- ① 2023年4月1日に当該セグメント2社を合併し、生産性や収益性の向上を図った結果、V字回復を果たせた。
- ② 付加価値の高い新規のディスプレイプロセスへの装置採用が進み、今後の大規模投資展開に期待する。
- ③ 主力のドライエッチング装置及び熱処理装置は、ディスプレイ関連に留まらず他業界での需要が進み、増収増益に繋がった。
- ④ 脱炭素化に向けた電気ヒーターの需要増や電子部品製造装置の更新による入替需要に伴い、工業用熱処理装置の受注が増加した。

単位：M円





セグメント情報

2-③ 産業機器関連事業

ワイエイシイホールディングス株式会社

執行役員

ワイエイシイマシナリー株式会社

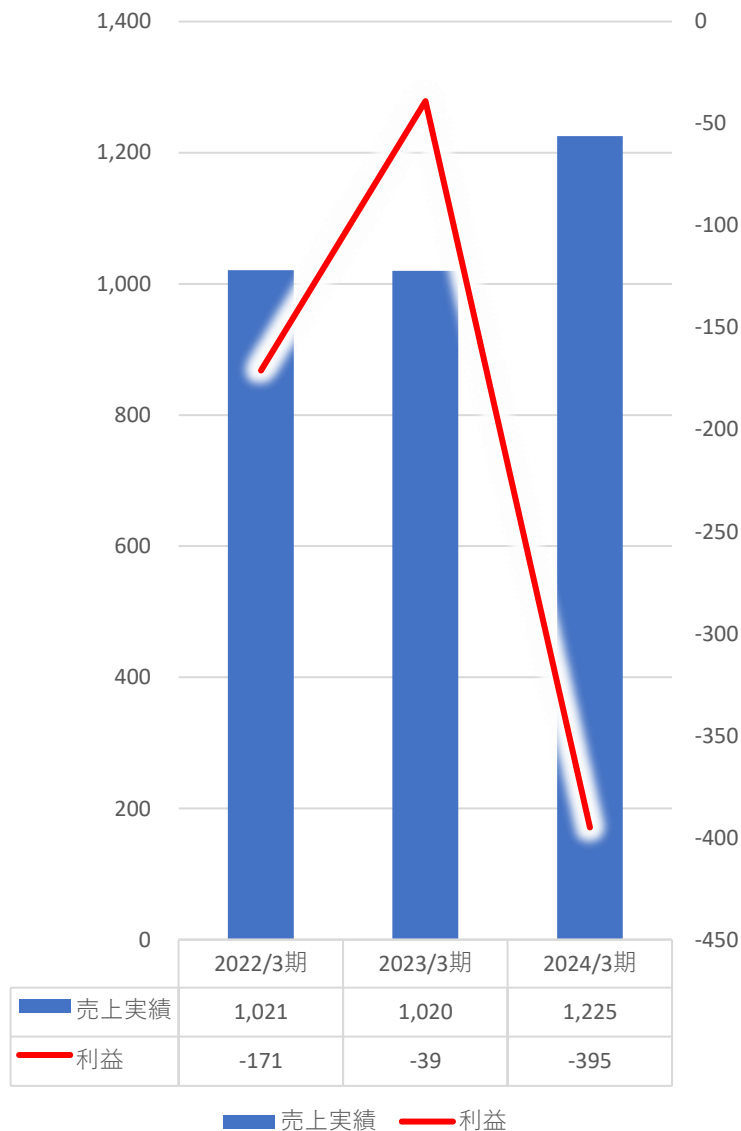
代表取締役社長

副島 幸雄

2024年3月期通期分析

- 4月よりJEインターナショナル関連を吸収したが、受注減により赤字幅拡大となる。
- ホームクリーニングは、工場数が縮小したため、稼働率は上がり、サービスの売上利益が貢献。
- 産業クリーニングは、医療リネンに注力し装置横展開を図り、特にトンネル仕上げ機の受注が増加。
- EC物流に注力し、大手ユーザーが当社包装システムを使用している。横展開を行うため各社に説明し引合多数となる。
「物流の24年問題」解決のためにも、省人化である自動包装機は必要なアイテムである。
- JEインターナショナルの受注は鈍かった。両面AOIの特徴はスループット倍速となるので、他業界へのシフトを実施し確度が高い案件が増加してきた。

単位：M円





セグメント情報

2-④ 電子機器関連事業

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役専務執行役員

大倉電気株式会社

代表取締役社長

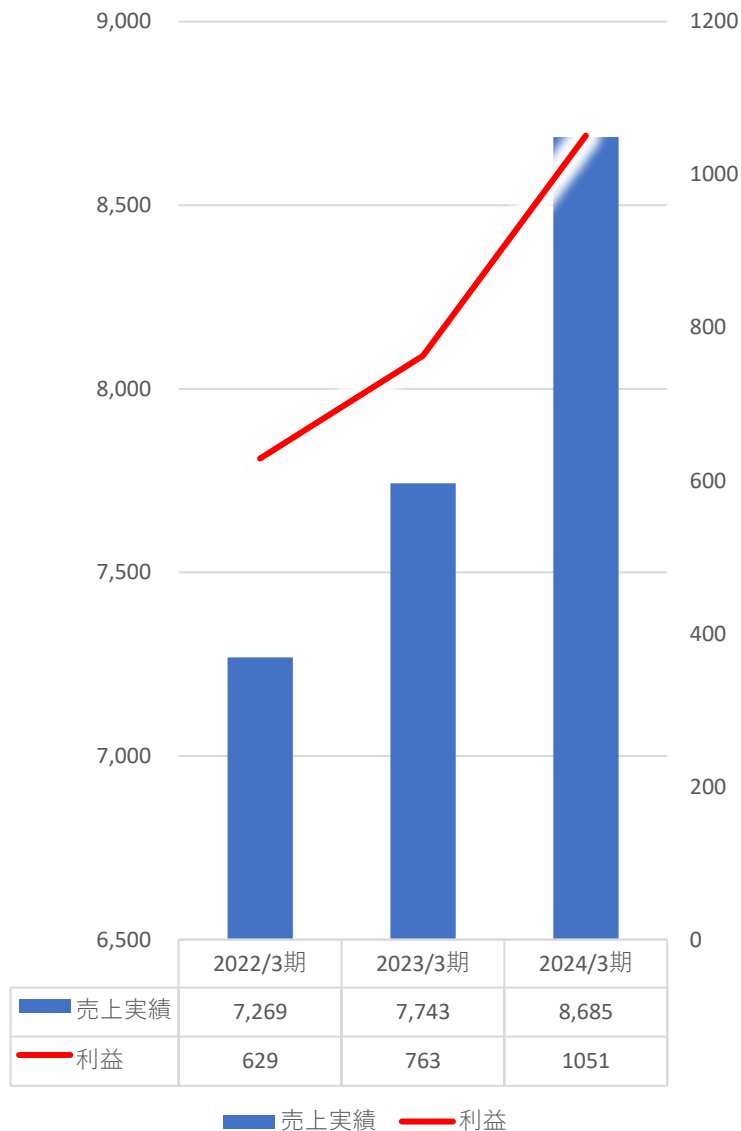
大倉 章裕

2024年3月期通期分析

当事業部は透析装置の製造販売を中心に営業活動を行い、売上、利益ともに昨年比上昇した

- **メディカル部門**：透析装置の売上が海外中南米中心に順調に伸びた。引き続き、コスト削減による利益率アップに取り組む
- **制御通信、工業計器部門**：再生エネルギー関連の情報伝送装置が安定的に増加。原子力発電所再稼働による工業計器の売上が引き続き増加
- **半導体**：国内半導体メーカーに対し提案してきた設備更新案件が結実し、縦型拡散炉および横型拡散炉、搬送装置を受注。但し、半導体市場としては一服感がある

単位：M円





3. ワイエイシイグループの今後の展望

ワイエイシイホールディングス株式会社

代表取締役社長 百瀬 武文

【創業理念】 (1973年)

継続発展

1. 技術集約会社
2. 旺盛なバイタリティー
3. リスクに果敢にチャレンジする
4. 少数精鋭主義

【成長理念】 (1985年)

社会貢献

1. 社員の豊かさを追求する（経済的・精神的）
2. 国・地方自治体に、より多く納税する
3. 新製品の創造・提供
4. 地域社会への貢献
5. 株主を優遇する
6. 環境保全のため省資源・省エネルギーを図る

【究極の理念】 (2020年)

SDGs

～より多く社会に貢献するために～

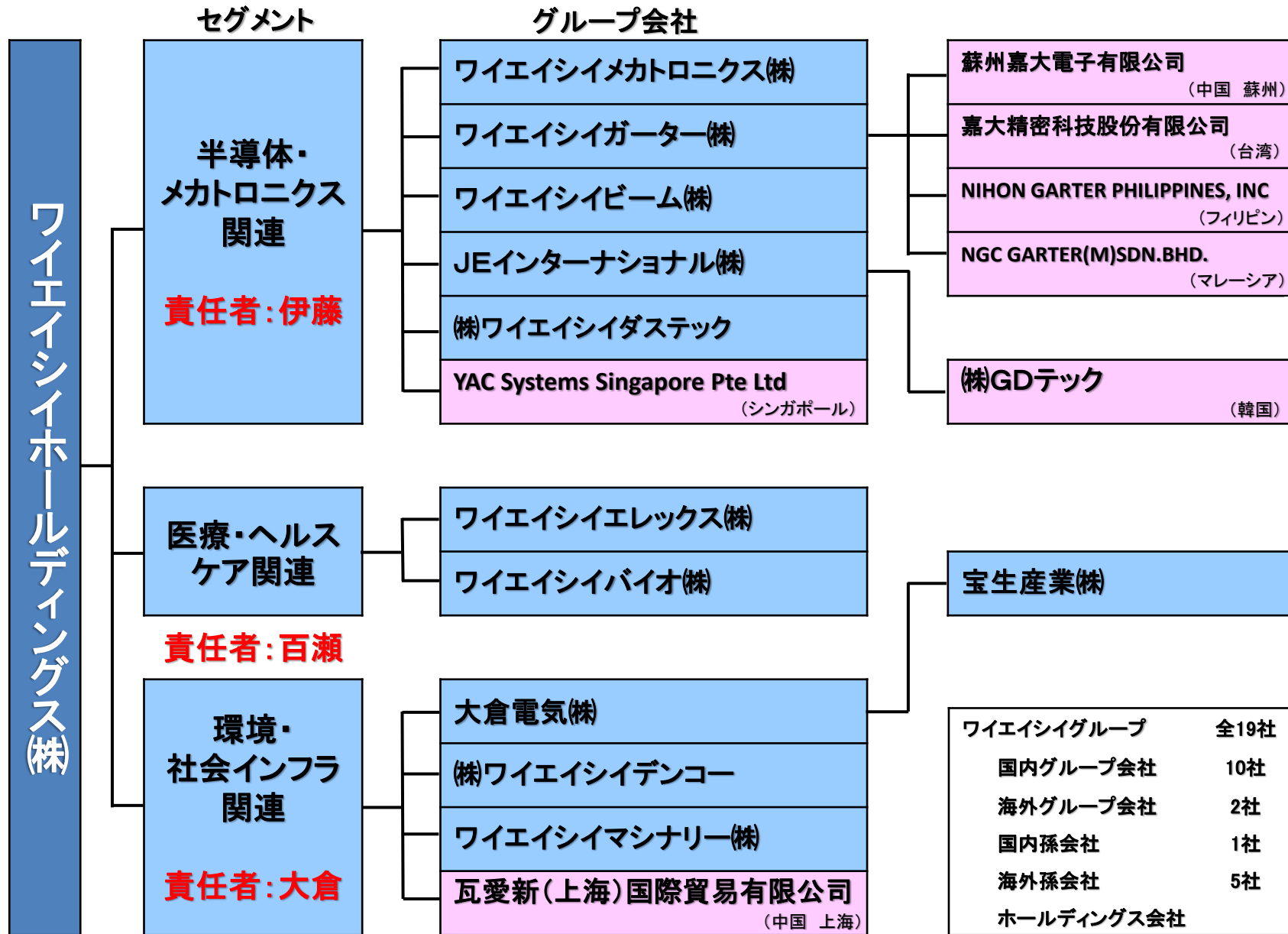
1. 社員・グループの成長
2. 全員経営・連携と競争
3. SDGs経営の推進
4. 納税額の拡大

1. 基本的条件 あるべき姿

①継続し発展する ……	部下・家族・自分・社会・国家のため
②赤字は社会悪 ……	経営者として最も恥ずかしいことである
③社会貢献 ……	常に成長し、かつ利益を通じて
④SDGs ……	持続可能な社会へ、いくつものカーボンニュートラルに通ずる量産新製品の開発
⑤プライム市場 …… (株主は投資家中心)	成長あるのみ。宿命である。使命である。 成長は、すべてがハッピー。
⑥量産新製品 …… (売上規模100億以上)	現在8テーマを進行中。更に増やし、10 テーマ以上を目指して新テーマの取込中。

2. 当社グループの文化は

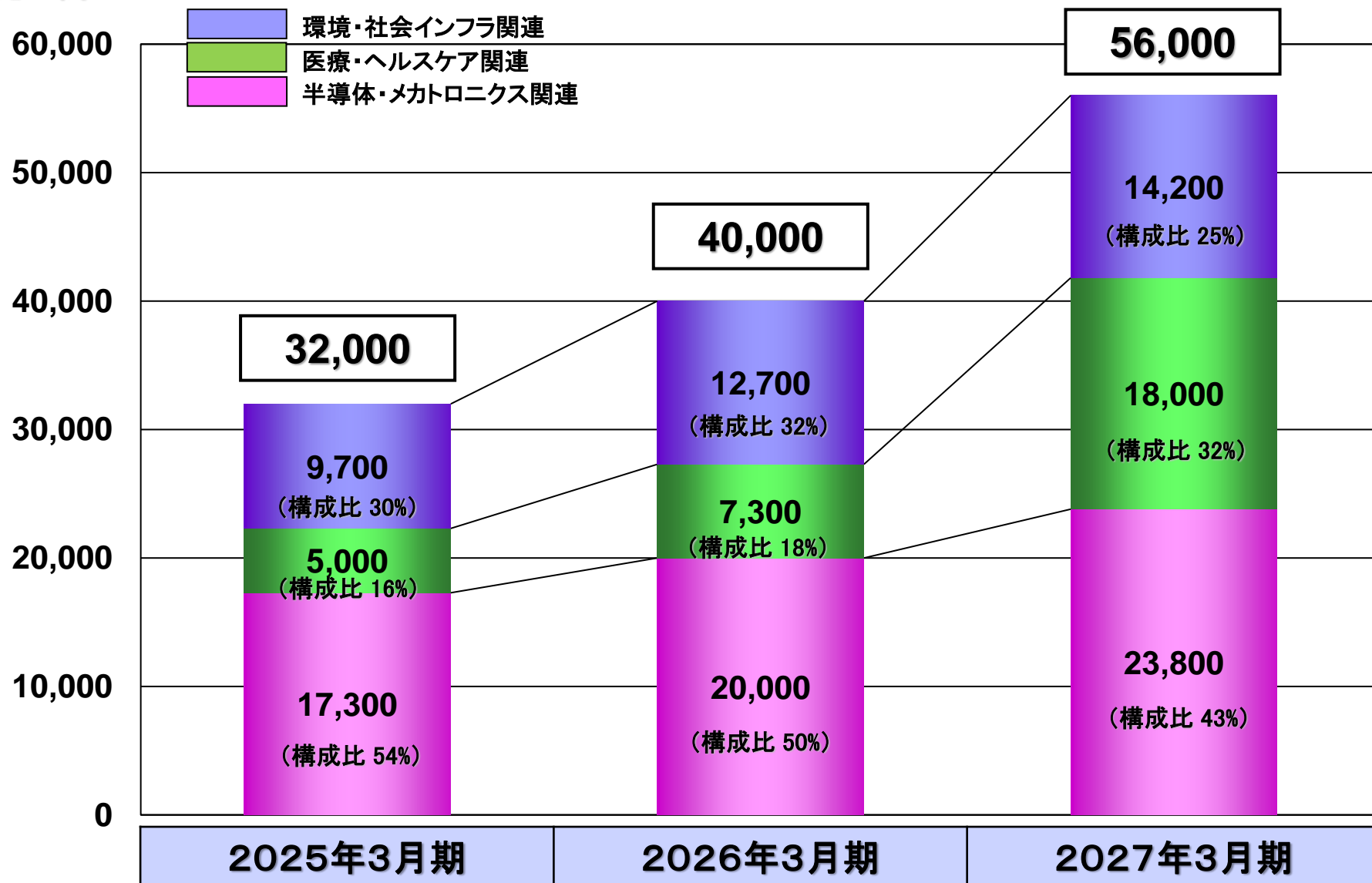
成長へ、そして更なる成長へと、困難な事態にも決してあきらめず、
全員経営の理念のもと、明るく元気よく、ポジティブな挑戦を続け、成
長への喜びを感じながら、より多く社会貢献を目指す企業集団である。



2025年3月期より、従来の4セグメントを3セグメントに再編いたしました。2030年に1,000億円企業の仲間入りを目指すにあたり、ワイエイシイグループが今後注力する方向性を明確化し、大きな飛躍を目指します。

新セグメント	コンセプト
半導体・メカトロニクス 関連	成長著しい「生成AI」や「パワー半導体」をはじめ、国家的プロジェクトとして国内回帰の始まった半導体分野の急成長に伴う設備投資の要求に応える。
医療・ヘルスケア 関連	「毛髪による疾病解析技術」及び独自に開発した「血液マーカーによる疾病解析技術」の事業拡大を図る新会社を設立。新興国を中心に需要拡大中の人工透析装置を手掛ける会社と連携し、医療・ヘルスケア分野に経営資源を投入し、大きな成長を図る。
環境・社会インフラ 関連	人々の暮らしに欠かせない「エネルギー」や「環境問題」に積極的に取り組み、SDGsの理念に即した製品を投入し、社会貢献と事業拡大の両立を図る。

売上高 (単位: 百万円)



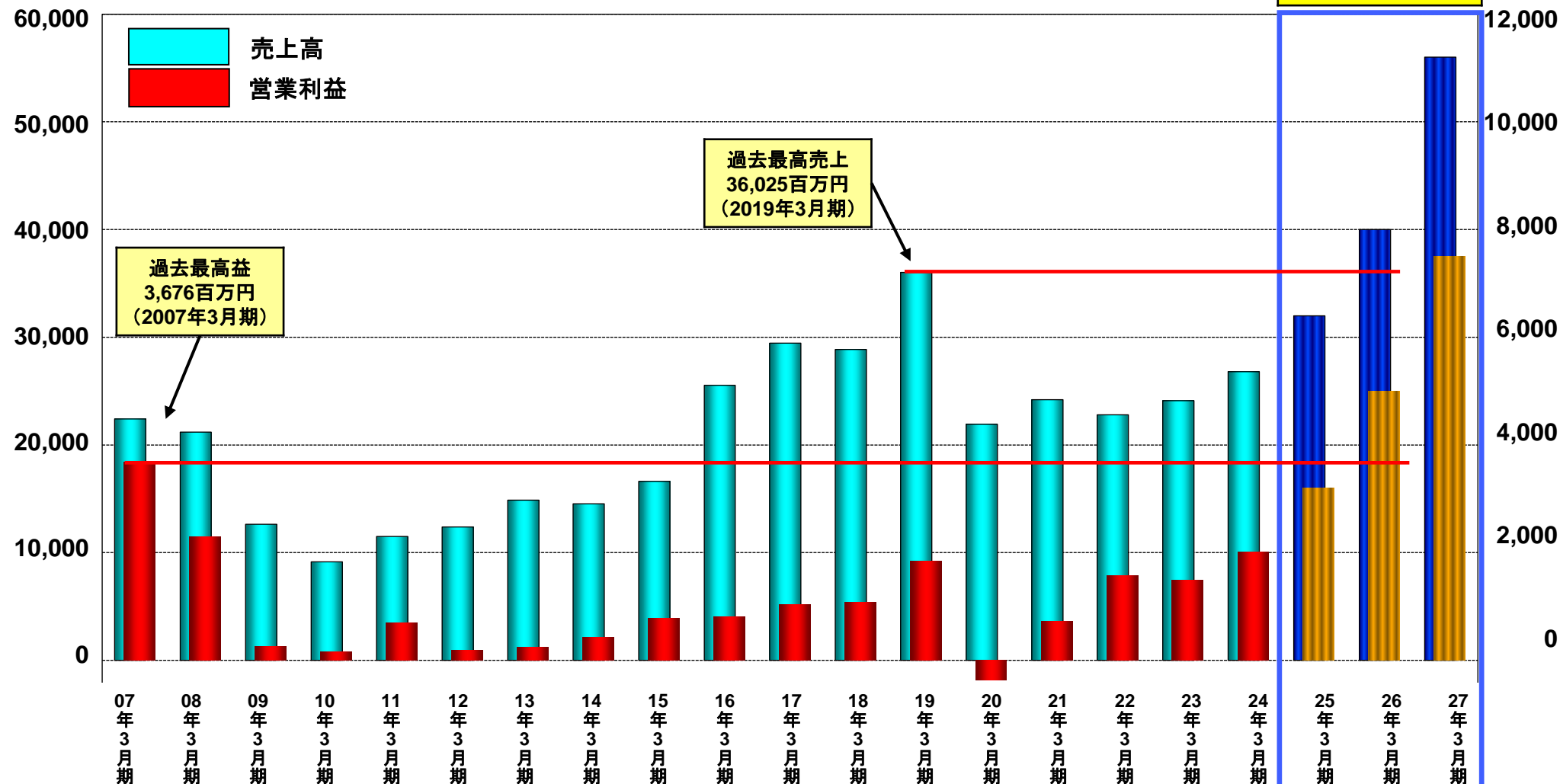
(単位: 百万円)

第16次
中期計画

営業
利益

2030年1,000億円企業の仲間入りへ、第16次中期計画において過去最高値を凌駕し、更なる成長を目指す

売上高



(1) 2025年3月期 業績予想

(百万円)

	売上	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益 (円)
2025年3月期 予想	32,000	3,200	3,000	2,000	217.63
2024年3月期 実績	26,809	2,006	2,074	1,417	154.33
増減率	19.4%	59.5%	44.6%	41.1%	—

(2) 配当

(円)

	中間	期末	合計	配当性向
2023年3月期 実績	25	50	75	74.6%
2024年3月期 実績	35	40	75	48.6%
2025年3月期 予想	35	40	75	34.4%

1. 2025年3月期 予算凌駕への戦略①

(1) 4大テーマの推進

1. 営業改革	①コンタクト数UP ②組織的営業活動、効率UP
2. 粗利率UP	①依命システムの完全実行 ②稼働率UP ③ミス防止
3. 経費削減・売掛金回収・在庫圧縮	①責任者の任命 ②スケジュール化して実行
4. 全員経営	①予算達成への戦略の共有化 ②目標凌駕への職場の一体感 ③ヤル気満々 …… 連携と競争

1. 2025年3月期 予算凌駕への戦略②

(2) B to C的事業の推進

1. 毛髪による疾病解析事業

- ①米国ライナスバイオテクノロジー社との提携事業
- ②2024年3月期 毛髪診断用の装置を出荷
- ③2027年3月期 初期の本格稼働を目指し、順調に進行中
- ④自閉症から始め、順次対象疾病を拡大
- ⑤まずは日本でのビジネス開始に向けて準備中

2. 血液マーカーによる疾病解析事業

- ①全自動の超高感度光デジタル測定装置「NeuroDetect」
- ②血液中の蛋白質(アミロイドベータ、タウ蛋白)等の測定が可能
- ③認知症をはじめ、様々な疾病に対応を予定

(3) 2030年 1,000億円企業の仲間入りを目指す

<達成への基本戦略> …………… 量産新製品重視

①既存事業による成長 …………… 年間5%以上

②量産新製品による成長 …………… 年間60%以上

③M&A・アライアンス …………… 年間30%以上

④B to C事業の取り込み

⑤売上100億円越えのニーズの取り込み

1. ワイエイシイグループの将来の展望

①中期的目標：2030年1,000億円企業の仲間入り

②長期的目標：創立100周年(2073年)3兆円企業

2. 大いなる「夢と希望とロマン」に向かっての基本戦略

①B to C ビジネスの取り込み

②いくつもの量産新製品(100~1,000億円)の成功

③100~1,000億円規模のM&Aの実施



新セグメント情報

3-① 半導体・メカトロニクス関連事業

ワイエイシイホールディングス株式会社

取締役副社長

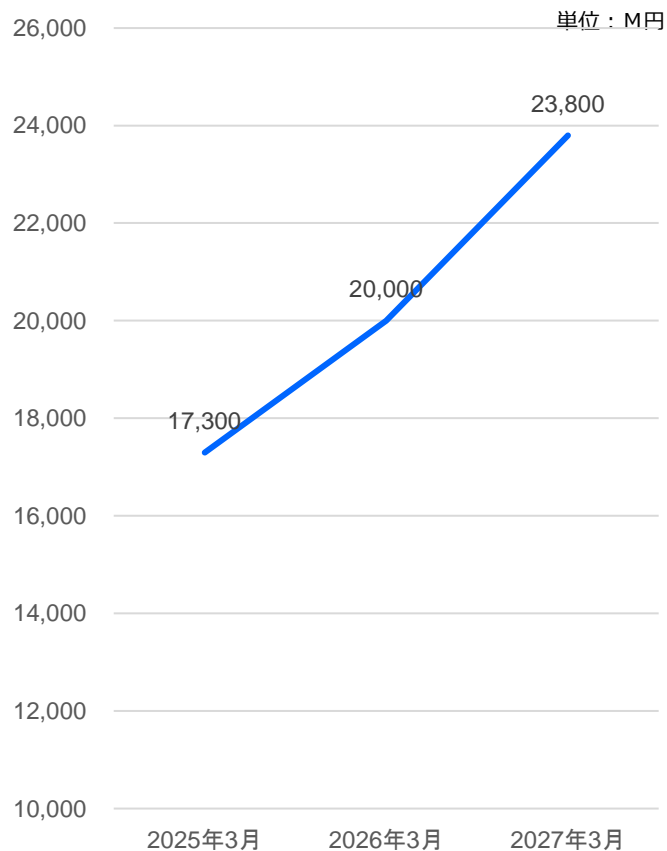
ワイエイシイメカトロニクス株式会社

代表取締役会長

伊藤 利彦

中期経営計画達成への施策

半導体・メカトロニクス関連
中期経営計画売上高



売上 (連結)	2025年3月	2026年3月	2027年3月
半導体・メカトロニクス関連	17,300	20,000	23,800

1. セグメント変更による期待される効果

半導体業界向け事業を行っている会社の集合体であり、顧客情報の共有、相互営業支援、人員の相互融通等、期待される効果がある。

2. 計画遂行に向けた施策

- ①各社の各種相互効果により、半導体市場向け装置に注力
- ②キャリアテープ関連は、適地生産、効率的な設備投資で生産性を上げる。
- ③集中購買、依命システム活用での原価低減による粗利率アップ

3. 量産新製品への取り組み

- ①SiCチップハンドラ テスターメーカーと共同で海外展開
- ②IPA関連乾燥機 中国を中心とした海外展開
- ③レーザー関連装置 アニール装置以外の用途開拓



新セグメント情報

3-② 医療・ヘルスケア関連事業

ワイエイシーホールディングス株式会社

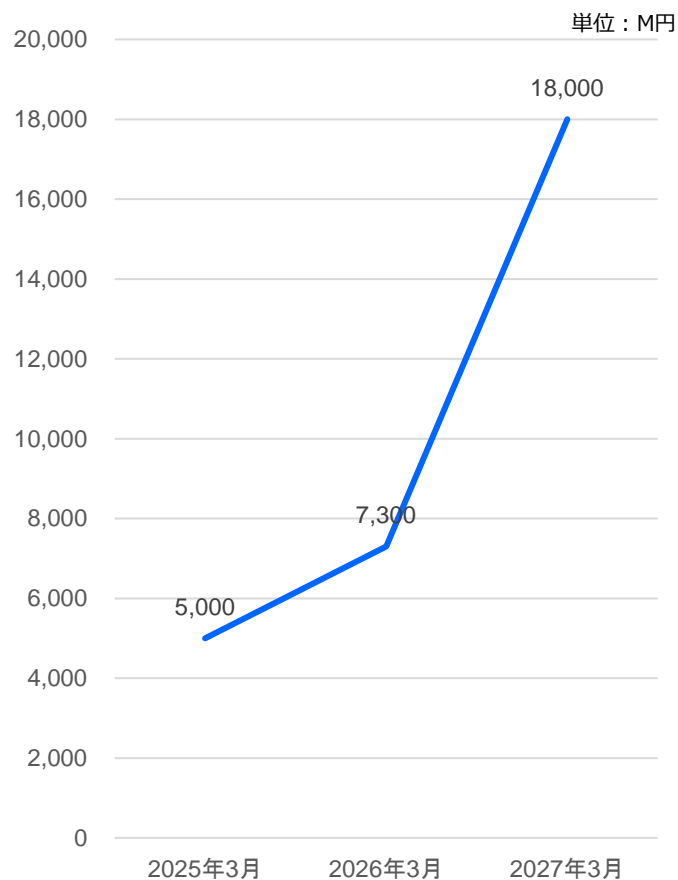
代表取締役社長 百瀬 武文

ワイエイシーバイオ株式会社

代表取締役社長 関口 孝

中期経営計画達成への施策

医療・ヘルスケア関連
中期経営計画売上高



売上 (連結)	2025年3月	2026年3月	2027年3月
医療・ヘルスケア関連	5,000	7,300	18,000

1. セグメント変更による期待される効果

毛髪及び血液により様々な疾病の診断事業の展開を図る新会社ワイエイシイバイオを設立した。人工透析装置の製造を主とするワイエイシイエレクトロニクスとの2社にて、これからの成長産業である医療・ヘルスケア事業を強力に推進することを内外に宣言し、3年目をメドに大きな成長の実現を図る。

2. 計画遂行に向けた施策

米国ライナスバイオ社をはじめ、医療系の企業や研究機関など、様々な事業パートナーとの連携を進めている最中である。事業拡大への戦略に則り、経営資源を集中投入して早期の利益貢献を図る。

3. 量産新製品への取り組み

この事業自体が量産新製品として強力に推進する。



新セグメント情報

3-③ 環境・社会インフラ関連事業

ワイエイシーホールディングス株式会社

取締役専務執行役員

大倉電気株式会社

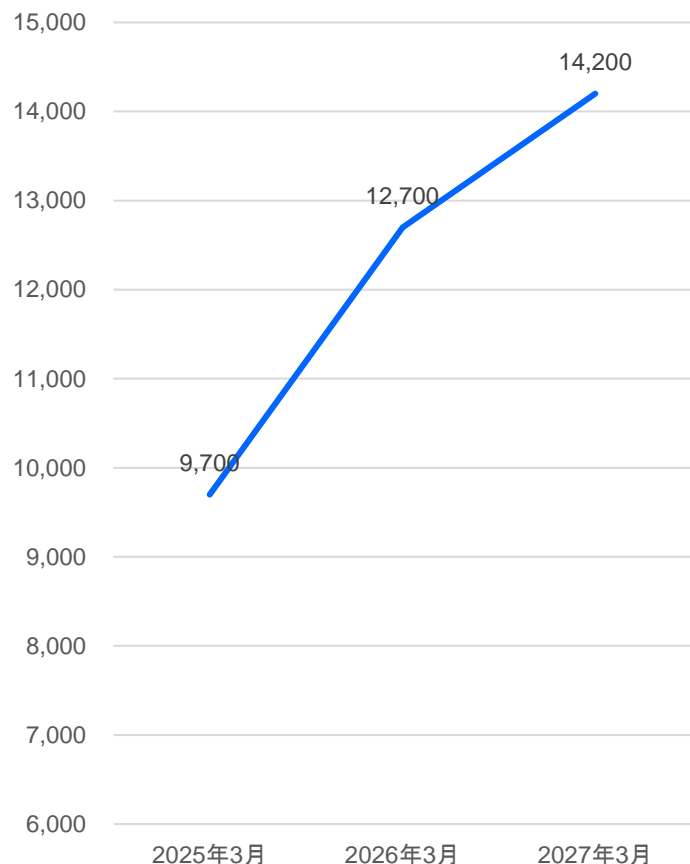
代表取締役社長

大倉 章裕

中期経営計画達成への施策

環境・社会インフラ関連
中期経営計画売上高

単位：M円



売上（連結）	2025年3月	2026年3月	2027年3月
環境・社会インフラ関連	9,700	12,700	14,200

1. セグメント変更による期待される効果

- ・各社保有の技術力を相互にいかし、お客様へ提供できる製品の幅を広げます

2. 計画遂行に向けた施策

- ・お客様とのコンタクト数を増やすことにより商談件数を増やし、受注増につなげます
- ・共通部品のまとめ発注によるコスト削減をおこないます
- ・ソフトウェア技術の共有化をはかり開発期間短縮をおこないます

3. 量産新製品への取り組み

- ・EC物流包装機器
- ・再生エネルギー対応情報伝送装置、遠隔監視装置（人から装置へ）
- ・ディスプレイ市場以外への既存技術力をいかした装置開発



▲ 将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼン資料で述べる将来の当社に関する見通しは、現時点での情報を元に作成したものです。

当社グループのお客様である半導体等の業界は技術革新のスピードが速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、各業界市況、設備投資の動向は、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。

したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。



さあ今日も、明るく、元氣よく
ときめきと感動の日々であれ！

しなやか先端技術企業集団
ワイエイシーグループ